

演奏のポイント

★の数によって6段階で難易度の目安を設定しています。(★の数が多いほど、難しくなります)

1. ピカデリー／E. サティ

♪ SMFデータあり ★☆☆☆☆

フランス生まれのエリック・サティが1901年に作曲した楽曲です。「マーチ」という副題を持つこの曲は、もともとカフェ・コンセルというオーケストラのために書かれていましたが、1904年にピアノ独奏用へと編曲されました。「ピカデリー」は『大きく広い襟』という意味で、ロンドンのピカデリー・ロードの名前もこれに由来しています。

イントロの2小節目、1拍目裏の音は左手で弾くとよいでしょう。[A]と[B]の右手のテーマのメロディは、シンクペーションに気をつけながら、軽快な雰囲気を出すようにしてみてください。

[C]から[E]にかけては転調します。[C]は[D]へ進むための橋渡しのような役割のところですが、右手の1拍目裏にある二分音符は、少ししっかりと長さを保って弾きましょう。全体を通して2拍子のリズムをよく感じ、楽しく演奏してください。

2. 笑ったり転んだり／ハンバート ハンバート

♪ SMFデータあり ★★☆☆☆☆

男女のデュオが歌う、のんびりとしたテンポのバラードです。優しく、ゆったりと演奏してください。[B]～[D]では、それぞれが順番に歌うように、会話をしているイメージで演奏すると良いでしょう。

各パートは、スラーの位置を参考にしてください。[B]では、左手の和音をギターのカッティングのように歯切れよく弾きましょう。

3. 残酷な夜に輝け／LiSA

♪ SMFデータあり ★★★☆☆

全体を通してダイナミックで力強い演奏を意識し、メロディをはっきりとした音で弾くことが大切です。また、フレーズの「間」では急がないよう丁寧に呼吸をとり、拍ごとの重みをしっかり表現するよう心がけましょう。

[A]後半の和音の連打による伴奏は、力が入りすぎたりスタッカートになったりしないよう、適度に抑えつつ“粘るように押さえる”感覚が必要です。疾走感のある[B]の伴奏も基本的には同じタッチで、2拍ずつをひとまとまりとしてとらえるとよいでしょう。

[D]では息をひそめるような雰囲気や、ゆったりとしたテンポ感で左手のラインを繊細に歌うように演奏してください。

4. 1991／米津玄師

♪ SMFデータあり ★★★★★☆☆

全曲を通して土台となっている3連符のフレーズを正確に、つぶを揃えて弾くことがポイントです。左手の3連符が伴奏パートとなる[B]～[C]、[E]では、メロディより目立ちすぎないように、常に力をコントロールして弾けるように練習してください。

指にはなるべく力を入れず、手の位置も固定せずに、手首の柔らかさを使って常に弾きやすいポジションを保つことがコツになります。メロディは繊細に、かつメリハリをつけて、フレーズをなめらかにつなぐ部分と、休符で間をつくる部分とのコントラストを意識しましょう。

5. New York State of Mind／B. ジョエル

♪ SMFデータあり ★★★★★☆☆

この曲についてはまず、音符どおりに正確に弾くだけでは音楽になりません。メロディ、伴奏パートともに、いかに自発的なニュアンスやアクセントを加えて表現していくかが出発点と言えるでしょう。原曲であるビリー・ジョエルの歌やピアノを参考にしてもよいですし、自分なりの歌い方を考え、即興的に表情をつけていくのも良い方法です。

楽譜上の f や p などの強弱記号は、あくまで全体の大きな構成の参考として捉え、メロディのフレーズ内や伴奏の一音一音に、生き生きとした強弱やアーティキュレーションをつけることで、この曲にふさわしいリラックスした表現が生まれてくるでしょう。

データに合わせる場合、イントロ[A]および[F]のRubato部分には最低限のきっかけを入れてあります。遅くなりすぎないように注意し、そのきっかけを合図にテンポへ戻るようにしてください。

6. Inscrutable Battle／松谷 卓

♪ SMFデータあり ★★★★★☆☆

「インスクルーダブル・バトル」は、TV番組「劇的ビフォーアフター」のメインテーマ曲です。「不可解な、謎めいた闘い」という曲名が示すとおり、原曲はシンセサイザー音色を軸に、拍子の変化や転調がたびたび登場する、複雑な構成となっています。まずは原曲を聴いて、全体の雰囲気をつかみましょう。曲の冒頭のグリッサンドはカウントの最後、4拍目の1拍分、好きな位置から行い、[E]の繰り返し後のメロディは1オクターブ上で演奏します。左手はビートをしっかりと感じながら、タイトに演奏しましょう。[G] [H]は束の間の休息のように美しく歌い、[I]からは再び激しく最後まで一気に駆け抜けます。曲全体の構成をしっかりと把握し、熱くも冷静に演奏しましょう。

7. On Fire / M. カミロ

♪ SMFデータあり ★★★★★★

ラテン・ジャズの巨匠ミシェル・カミロの代表曲で、超絶技巧のピアニストならではの疾走感あふれるナンバーです。「リフ」と呼ばれるリズム・パターンが随所に登場します。ラテンらしい躍動感を感じながら、生き生きと演奏しましょう。テンポが速いため、メロディや伴奏とともに、シンコペーションのリズムに乗り遅れないよう注意し、決めのリズムもしっかりと合わせましょう。両手に登場する A7 や E7 などの 7th コードには、#9th のテンション音が使用されているため、和音の中に「ドとド#」「ソとソ#」のような半音の組み合わせが現れます。注意深く譜読みしましょう。データ音源とともに、On Fire（絶好調）で、カッコよく情熱的にグルーブしてください。

8. 火祭りの踊り / M. デ・ファリャ

★★★★★★

スペインの作曲家ファリャによるバレエ音楽「恋は魔術師」の中で、悪魔払いの儀式の音楽として書かれた激しい踊りの曲です。もとはオーケストラ曲ですが、作曲者自身によるピアノ編曲も知られており、ここでは概ねそのピアノ版に基づき、一部の難易度の高い装飾音や、広いスパンの和音の構成音を省略して掲載しています。

炎を象徴するトリル、フラメンコを思わせる音階、そして5度を基調とした踊りのリズムが、各場面で重要な要素となっています。それぞれの特徴を存分に表現できるよう、手の動きを柔らかく大きく使って、たっぷり演奏しましょう。

強弱やペダルの指示は非常に細かく記されていますが、単なる指示としてではなく、表情や響きがめまぐるしく変化する流れを理解するための手がかりとして捉えるとよいでしょう。[D]のpp部分では、ダンパーペダルとともにソフトペダルを使うことも効果的です。